

2. 時系列

TEPCO

時系列	
5:30頃	・ 朝礼、TBM-KY
7:30頃	・ 現場KY、作業開始
10:40頃	・ ホースの外れによる洗浄廃液の飛散が発生 ・ 外れたホースの戻し、飛散水の簡易ふき取り
11:10頃	・ 当社に連絡 ・ 作業員5名の汚染した装備を脱衣し、簡易な身体除染を実施
12:28	・ 1人目（A）の身体汚染者がERに到着（飛散時に最も至近距離にいた作業員）
12:32頃	・ 1人目（A）の除染を開始
12:40	・ 第25条報告（第一報）を通報
12:42	・ 残り4名（B～E）がERに到着し、除染を開始
13:08	・ 増設ALPS建屋への関係者以外の立ち入り制限を実施
14:45	・ 作業員5名の放射性物質の内部取り込みなしを確認 ・ 作業員5名のうち1名（C）身体汚染なし、2名（D,E）除染完了
19:23	・ 残る作業員2名（A,B）の管理区域退出レベル以下の除染は困難と判断
19:52	・ 第25条報告（第二報）を通報
20:59	・ 作業員2名（A,B）が福島医大付属病院へ出発
22:25	・ 福島医大付属病院へ到着
00:10	・ 作業員2名（A,B）については診断後に入院。
10/28PM	・ 作業員2名（A,B）が退院。

4. 作業計画および身体汚染結果



■ 本作業の計画線量：0.6mSv APD警報設定値：ガンマ0.5mSv、ベータ5mSv

作業員ごとの装備、汚染状況、内部・外部被ばく

作業員	年齢性別	装備	汚染状況 (除染前)	汚染状況 (除染後)	内部被ばく	外部被ばく (mSv)
A 会社1	20代 男性	<ul style="list-style-type: none"> 作業用カバーオール2重* 靴下2重・ゴム手袋2重 全面マスク リングバッジ 水晶体バッジ 	全身 (100kcpm超)	除染後、 病院搬送	鼻腔スミア結果 異常なし B.G相当	γ：0.11 β：6.6
B 会社1	40代 男性	※：作業員Bは飛散を発見後、 飛散水の簡易ふき取りを 実施する前にアノラック (下)を着用	下半身、両手 (3.5kcpm)	除染後、 病院搬送		γ：0.07 β：1.6
C 会社2	30代 男性	<ul style="list-style-type: none"> 作業用カバーオール+ アノラック 靴下2重・ゴム手袋3重 全面マスク リングバッジ 水晶体バッジ 	汚染なし	汚染なし		γ：0.16 β：2.0
D 会社3	30代 男性		下半身 (1.4kcpm)	汚染なし		γ：0.02 β：0.2
E 会社1	40代 男性		下半身、両手 (13kcpm)	汚染なし		γ：0.02 β：0.3

5. 汚染した原因



- 薬注ポンプで注入中、発生するガスの発生に合わせてポンプの起動・停止を繰り返していたが、作業員Cは、受入タンクの水位上昇やホースが動くことがなかったため、タンク監視を作業員Aと一時的に交代し、別エリアで行っていた作業場に移動。
- 作業員Cが作業員Aと一時的に交代した際、作業員Aがアノラックを着用せずに作業をした。
- その後、ホースからの飛散が発生し、カバーオールに付着・浸透し汚染。
- また、タンク近傍にいた作業員Bについてもカバーオールに付着・浸透し汚染。
- 作業員D、Eについては、清掃時または装備（アノラック）脱衣時に汚染したものと推定。

	作業員	役割分担（作業開始時）	役割分担（事象発生時）
作業員	C	受入タンク監視	他配管洗浄後の片付け 作業場に移動
	D	薬注ポンプ操作	同左
	E	薬注ポンプ監視	同左
	A	受入タンク監視（助勢）	受入タンク監視
	B	受入タンク監視（助勢）	同左

